言語

漢字の成り立ち・部首

◆**漢字の成り立ち**…作られ方、用いられ方により次の六つに分類でき、これを六書といいます。

〈作られ方による分類〉

① **象形文字**…物の姿や形をかたどって作った文字。
例 山・日・馬・木など

② **指事文字**…ものごとの位置や性質などを点や線で記号化して表した文字。
例 上・中・一・二など

③ **会意文字**…すでにある文字を二つ以上組み合わせて作った文字。
例 明・林・美・孫など

④ **形声文字**…意味を表す部分と音を表す部分を組み合わせて作った文字。
例 花・論・理・編など

〈用いられ方による分類〉

⑤ **転注文字**…本来の文字の意味から転じて他の意味に使うようになったもの。例 楽（原義は「音楽」）→「たのしい」

⑥ **仮借文字**…文字の意味とは関係なく、その字の音だけを借りたもの。外国語の表記に多く用いられる。例 亜細亜・印度など

◆**部首**…漢字を構成している基幹的な部分で、次の七つに分類されます。

① へん　言（ごんべん）　氵（さんずい）
② つくり　阝（おおざと）　刂（りっとう）
③ かんむり　艹（くさかんむり）
④ たれ　厂（がんだれ）　尸（しかばね）
⑤ にょう　辶（しんにょう）　走（そうにょう）
⑥ かまえ　門（もんがまえ）　匚（はこがまえ）
⑦ あし　灬（れっか・れんが）

1

次の漢字の成り立ちをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 岩（　）　(2) 下（　）　(3) 子（　）
(4) 洗（　）　(5) 魚（　）　(6) 績（　）
(7) 本（　）　(8) 張（　）　(9) 鳴（　）

ア 象形文字　イ 指事文字
ウ 会意文字　エ 形声文字

2

次の漢字の部首の名前をひらがなで書きなさい。

(1) 快（　　）　(2) 建（　　）
(3) 図（　　）　(4) 独（　　）
(5) 肥（　　）　(6) 盛（　　）
(7) 頭（　　）　(8) 登（　　）
(9) 窓（　　）　(10) 防（　　）
(11) 底（　　）　(12) 術（　　）

3

次の各組の漢字に共通してつけられる部首の名前をひらがなで書きなさい。

(1) 谷・寸・祭・番（　　）
(2) 単・兄・土・申（　　）
(3) 干・半・貝・倉（　　）

4 キーワード・文脈

例題

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

仮説が白か黒かを決めるのは周囲の人々です。

同時代の大部分の専門家が正しいと考えているものが白い仮説です。逆にほとんどの専門家がまちがいだとみなしているものが黒い仮説です。専門家の意見が分かれるのであればグレーな仮説です。そのグレーの濃淡も、限りなく白に近いものから限りなく黒に近いものまでさまざまです。

でも、専門家はグレーだと考えていても、一般の人々は、テレビなどで*喧伝されてそれが白だと思いこむこともあるでしょう。

人間が作りだす世界は言語がもとになっています。そういう意味では、文化のすべてが仮説だといっても過言ではありません。

でも、その仮説には、白から黒までの幅広いグラデーションがあり、また、専門家と素人で、その濃淡の感じ方も［　　］ことがあるのです。

（竹内薫『99・9％は仮説　思いこみで判断しないための考え方』）

＊ 喧伝＝さかんに世間に言い伝えること。

問一　この文章のキーワードとして最も適切な言葉を、文中から一語で書き抜きなさい。

（　　）

問二　――線部「グレーの濃淡」とありますが、この表現を言い換えた部分を文中から二十字以内で書き抜きなさい。

問三　［　　］にあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 等しくなる　イ 基本的には変わらない
ウ はっきりしない　エ 大きく変わる

（　　）

ねらい　読解▼キーワードをとらえ、文脈を押さえる。
言語▼画数・筆順・書写

◆文章の話題を押さえ、キーワードをとらえる

説明的文章の内容を正しくとらえるためには、文章全体の話題を押さえ、キーワードを軸に、その話題についてどんな説明、どんな考えを述べているかをとらえることが大切です。次のような言葉に着目し、キーワードをとらえましょう。

① 繰り返し使われている言葉。
② 各形式段落の中心文で使われている言葉。

問一では、文章全体で最もよく繰り返し使われている言葉をとらえます。

◆接続語・指示語に着目して、文脈をとらえる

文脈（文章の筋道）を正しくとらえるには、次のポイントが大事になります。

① 接続語・指示語に着目し、どんな関係で前後をつないでいるかを考える。
② キーワードについて、どんな説明、考えを展開しているかを読み取る。
③ 同じ内容を異なった表現で表した言葉をとらえる。

問二では、直後の「限りなく白に近いものから限りなく黒に近いものまでさまざま」をヒントにして、似た意味の表現を探します。**問三**のような空欄補充の問題では、空欄の前後の表現に着目し、文脈を押さえることが大切です。ここでは、「専門家と素人（＝一般の人々）」という表現に着目します。

練習問題 1

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

英国のロンドンにある大英博物館には、①アッシリア（いまのイラクの北東部）でライオン狩りをする、当時のアッシリアの王族たちを石に彫った彫刻があります。これは紀元前七世紀ごろ、つまりいまから二六〇〇年以上も前に作られたもので、ライオンや人々の動作が、生き生きと、みごとに描かれているすぐれた彫刻です。

この彫刻が作られたころには、アッシリアには森があってライオンもいたのですが、いまではそのあたりは②一面の砂漠になってしまっています。人々は森の木を切り倒して家を作ったり食事を作るときの燃料にしてしまったので、森の木がなくなり、生態系が変わってしまって、砂漠になってしまいました。

アッシリアは当時文明が進んだ国で、農業や牧畜がさかんでした。それまでは刃物は石器や青銅器でしたが、ずっと切れ味がいい鉄を使うようになって、森の木々は次つぎに切り倒されていったのです。

③これらの木々は、家や家具を作ったり、燃料として燃やされたり、船を作るための材料にされました。それだけではありません。鉱石から金属を取りだすための*1精錬にも、また陶器や磁器を窯で焼いて作るためにも、木々は次つぎに使われ、森はどんどんなくなっていったのです。

④森は「緑のダム」ともいわれます。木の葉や木のまわりの地面が降った雨をダムのようにためこんでくれるからです。しかし森の木をこうして切ってしまうと、降った分だけの雨がいきなり流れだすようになってしまうので、洪水がよく起きるようになります。

また、森がなくなると、地面の表面にある土が流れ去ってしまって、農業ができない土地になってしまいます。これを砂漠化といいます。

森の木を切ることによって文明がさかんになったことはたしかでしょう。しかしその後、森がなくなってしまって文明も滅んでしまう、という⑤皮肉なことが起きたのです。

アッシリアにはかぎりません。世界のあちこちで、こうして砂漠化が起きていったのです。そして、一九世紀から後には、いっそう砂漠化が進んできています。

日本各地でときどき起きる気象現象に「黄砂」があります。黄色っぽい細かい土が空から降ってきて、屋根や自動車を汚したり、ときには目に入って痛くなったりします。

これは、中国の砂漠から舞い上がった細かい砂が上空の*2偏西風にのって運ばれて、日本までやってきたものです。

（中略）

中国内陸部には、タクラマカン砂漠、ゴビ砂漠といった大きな砂漠があります。これらの砂漠の面積は、年々広くなっています。また、砂漠以外の場所でも、川や湖の水を*3灌漑農業に大量に使うようになったので、川や湖の水が減って、森や畑がどんどん乾燥地に変わっていっています。このため、黄砂も、これまでよりも増えるのではないかと心配されています。

（島村英紀『地球環境のしくみ』）

＊1　精錬＝鉱物から交じり物を取り除き、次第に純度を高めること。
＊2　偏西風＝南北両半球の中緯度地方の上空をいつも吹いている西寄りの風。
＊3　灌漑農業＝田畑に必要な水を人工的に供給して行う農業。

★**問一**〈キーワード〉この文章の中心的な話題を示す言葉を文中から三字で書き抜きなさい。

ポイント　キーワードは、**文章全体で最も繰り返されている言葉を選びましょう。**

★**問二**〈文脈〉——線①「アッシリア……彫刻」は、どのようなことを説明するために用いられた例ですか。

〔　　〕

問三〈内容理解〉——線②「一面の砂漠になってしまっています」とありますが、その理由として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　アッシリアの人々が青銅器を作るのに大量の木を切り倒したため。
イ　王族の長期に渡るライオン狩りによって、生態系が壊れたため。
ウ　人間が生活のために木を切り倒したことで、生態系が変わったため。
エ　大雨が降って、森の木をすべて流してしまったため。

〔　　〕

問四〈指示語〉——線③「これらの木々」が指す内容を、「～木々」に続くように文中の言葉を使って書きなさい。

〔　　木々〕

★**問五**〈文脈〉——線④「森は『緑のダム』ともいわれます」とありますが、「緑のダム」がなくなると、どのようなことが起こるのですか。それを説明した次の［　　］A～Cにあてはまる言葉を、Aは一字、B・Cは二字で、それぞれ文中から書き抜きなさい。

降った［A］をためこむことができず、水が勢いよく流れて［B］になったり、地面の表面の土が流れ去ってしまって［C］ができない土地になったりする。

A［　　］　B［　　］　C［　　］

漢字の読み書き 4

□①　純粋な気持ちで話し合う。（　　）
□②　約束を破らないと誓う。（　　）
□③　駐車違反を取り締まる。（　　）
□④　大声でうるさく騒ぐ。（　　）
□⑤　裁縫箱から針を出す。（　　）
□⑥　運営資金が乏しい。（　　）
□⑦　仲間から疎外される。（　　）
□⑧　忙しい毎日が続く。（　　）
□⑨　追悼の意を表す。（　　）
□⑩　山でうさぎを捕まえる。（　　）
□⑪　町が災害からフッコウした。（　　）
□⑫　石油資源にトんだ国。（　　）
□⑬　歯磨きのシュウカンをつける。（　　）
□⑭　多大なソンガイをこうむる。（　　）
□⑮　武将が城をキズく。（　　）

★**問六**〈文脈〉——線⑤「皮肉なこと」とは、どのようなことですか。文中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

問七〈内容理解〉この文章の内容として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　動物の乱獲が原因で、タクラマカン砂漠やゴビ砂漠などといった大きな砂漠が出現した。
イ　日本各地で見られる「黄砂」は、中国の砂漠から舞い上がった砂が偏西風にのって日本まで運ばれてきたものである。
ウ　砂漠を減らしライオンが生存できる森を再生することが、地球環境にとって最も重要な課題である。
エ　灌漑農業によって一度砂漠になった地域では、それ以後二度と農作物が育たなくなる。
オ　中国内陸部にある砂漠の面積は、年々広がっているが、逆に「黄砂」はこれから徐々に減っていくことが予想されている。

〔　　〕

練習問題2

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（1〜9は段落番号です。）

1 ひとは食べずには生きていけない。そして食べるためには、食べるものを作らなければならない。狩猟民や採集民にしても、獲物や採集物を、調理もせずに食べるのはまれであろう。調理は、人間生活におけるもっとも基礎的な行動であることは疑いない。火がしばしば文明の象徴とされるのも、おそらくそういう理由からであろう。

2 が、この調理といういとなみに、①奇妙なことが起こっている。独身のひとたちに限らず、料理をしないひとが増えてきたというのは、正確な数字情報はもっていないが、コンビニエンス・ストアやデパートの地下の食料品売り場あるいは夜の居酒屋などの風景を見るかぎり、どうもたしかな事実のようである。昼休みともなると、みずから調理したお弁当をあけるひとはさらに少なくなる。ほとんどのひとが社員食堂に行くか、弁当を買いに行く。パンやスナック菓子ですませるひとも少なくない。

3 作らないということは、食事の調理過程を外部に*1委託するということだ。調理を家の外に出すということ、②そのことの意味は想像以上に大きいように思われる。

4 たしかに、むかしは調理も公共の場で、たとえば露地の共同炊事場でおこなわれることが多かった。それは戦後の二十年くらいまではふつうの光景だった。その後、料理の仕事は「マイホーム」に内部化されたのだが、現在その過程が、わたしたちからは見えない場所に移動させられつつある。それはちょうど、かつて*2排泄が野外や共同便所でなされ、汲み取りもわたしたちの面前でなされていたのに、下水道の完備とともに排泄物処理が見えない過程になったのと同じことである。

5 それとほぼ並行して、病人の世話が病院へと外部化された。出産や死という、人生でもっともっぴきならない瞬間も家庭の外へと去った。家で母親のうめき声を聴くことも、赤ちゃんの噴きだすような泣き声を聴くこともなくなってしまった。いや、じぶんの身体でさえ、もはやじぶんでコントロールできず、体調がすぐれないときには、すぐに医院へかけつけるしまつだ。自己治療、相互治療の能力はほぼ*3枯渇した。その点で、［　　］。

6 誕生や病や死は、人間が有限でかつ無力な存在であることを思い知らされる出来事である。

あ そして家庭内にのこされたそういう種類の最後のいとなみが、調理だった。

い そういう出来事、そういういとなみが、「戦後」という社会の中で次々に外部化していった。

う 同じように排泄も、じぶんがほかならぬ自然の一メンバーであることを思い知らされるいとなみである。

7 ひとは調理の過程で、じぶんが生きるために他のいのちを破壊せざるをえないということ、そのときその生き物は*4渾身の力をふりしぼって抵抗するということを、身をもって学んだ。そしてじぶんもまたそういう生き物の一つでしかないということも。そういう体験の場所がいまじわりじわり消えかけている。③見えない場所に隠されつつある。このことがわたしたちの現実感覚にあたえる影響はけっして少なくないと思う。

8 わたしたちは日々、獣を殺し、魚を釣り、葉をむしって食べている。そしてそれをほんとうにおいしくいただく。ひとつのいのちが別のいのちの火に変わる。が、宇宙的とも言っていいこの単純な事実を、わたしたちはふだんひとの眼に触れないようにばかりしている。肉や魚を切り身にし、透明ラップをかけて売ったりして。それどころか、じぶんたちの誕生や死も、病院というひとの眼に触れない場所で処置するようになった。新生児も遺体もきれいにされ、衣にくるまれてから対面するようになった。

9 この覆いは残酷さを隠すためのものだろうが、ほんとうは、いのちのやりとりという、もっと大事なものを隠してしまっているとは言えないか。

（鷲田清一『悲鳴をあげる身体』）

＊1　委託＝自分の代わりを人に頼み任せること。

＊2　排泄＝生物が体内に生じた不用なものを体外へ出すこと。
＊3　枯渇する＝なくなる。尽きる。
＊4　渾身＝からだ全体。

問一〈内容理解〉——線①「奇妙なこと」とありますが、筆者はなぜ「奇妙なこと」だと考えるのですか。三十五字以上四十五字以内で書きなさい。

問二〈内容理解〉——線②「そのことの意味は想像以上に大きい」とありますが、それは、調理の過程でわたしたちが学んできた事柄が忘れられてしまうからだと筆者は考えています。その、わたしたちが学んできた事柄を三つ、それぞれ文中の言葉を使って書きなさい。

★**問三**〈文脈〉［　　］にあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　他の生物のいのちを粗末にするようになった
イ　死を恐れないようになったのである
ウ　身体はもはやじぶんのものではない
エ　人間の能力が昔よりも大きく進歩した

★**問四**〈文脈〉6段落の㋐〜㋒の文は、順番が入れ換わっています。正しい順番を記号で答えなさい。（　　→　　→　　）

問五——線③「見えない場所に隠されつつある」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

★(1)〈キーワード〉「見えない場所に隠」すことを表す漢字三字の言葉を文中から書き抜きなさい。

(2)〈内容理解〉このような状況になった理由を、筆者はどのように考えていますか。文中から十字以内で書き抜きなさい。

問六〈要旨〉この文章の筆者の主張として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　他の生き物は人間のために存在するが、人間に食べられて当然だという感覚はもたないようにするべきだ。
イ　生き物のいのちは他の生き物に受け継がれるものであるから、死を恐れず前向きに生きることが必要だ。
ウ　生きることはいのちのやりとりをすることであり、その残酷さと重みにもっと目を向けなければならない。
エ　人間も含め生き物はみな死から逃れられず、自分の無力さに打ちのめされるのもやむをえない。

（　　）

4 キーワード・文脈

キーワードや文脈をとらえ、文章の内容を的確にとらえる単元。
説明的文章の読解では、筆者がその文章で何について述べようとしているのか、話題をまずとらえる必要がある。話題をとらえたら、繰り返し使われているキーワードを押さえ、どのような流れ（文脈）で、筆者の考えを述べようとしているかをとらえる。次の文脈のとらえ方のポイントを理解しておこう。

① 接続語・指示語に着目し、各文がどんな関係でつながっているかを読み取る。
② 例を挙げて説明している部分を押さえ、何を述べるための例かを読み取る。
③ 同じ内容を異なった表現で言い換えている部分がないかを探す。
④ 各段落の中心文を押さえ、段落の要点をとらえる。

言い換え部分の指摘や、空欄補充の問題では、キーワードや文脈を正しくとらえて考えることが必要になる。右の①～④のポイントを押さえ、問題に取り組もう。

P 23

1 〔例題〕

問一　仮説　　問二　白から黒までの幅広いグラデーション　　問三　エ

解説

問一　この文章では、「白い仮説」「黒い仮説」「グレーな仮説」について述べられているが、いずれも「仮説」について述べられているので、「仮説」が重要なキーワードである。

問二　「グレーの濃淡」とは、「グレーな仮説」における「限りなく白に近いものから限りなく黒に近いものまでさまざま」なもののことであり、これを最後の段落で「仮説には、白から黒までの幅広いグラデーションがあり」と言い換えている。

問三　［　　］には、「仮説」に対する「専門家と素人」の考え方の差を示す表現が入る。「素人」は「一般の人々」と言い換えることができ、両者の考えを比較した6～7行目「専門家はグレーだと考えていても……それが白だと思いこむ」と同じ内容の表現があてはまることがわかる。

P 24

1 〔練習問題1〕

問一　砂漠化
問二　かつてのアッシリアには、ライオンが生息する森が存在していたこと
問三　ウ
問四　鉄の刃物によって次つぎに切り倒された（木々）
問五　A　雨　　B　洪水　　C　農業
問六　森の木々によってさかんになった文明が森を失って滅ぶこと
問七　イ

P 25

〔漢字の読み書き4〕

① じゅんすい　② ちか　③ ちゅうしゃ　④ さわ　⑤ さいほう
⑥ とぼ　⑦ そがい　⑧ いそが　⑨ ついとう　⑩ つか　⑪ 復興
⑫ 富　⑬ 習慣　⑭ 損害　⑮ 築

P 26

1 〔練習問題2〕

問一　調理は人間生活におけるもっとも基礎的な行動なのに、それをしないひとが増えてきているから。
問二　・じぶんが生きるために他のいのちを破壊せざるをえないこと
・他のいのちを破壊するとき、その生き物は渾身の力をふりしぼって抵抗するということ

解説

問一　文章全体を通して、森が「砂漠化」していっていることを述べている。
問二　6～7行目に「この彫刻が作られたころには、アッシリアには森があってライオンもいたのです」とあり、この彫刻は、かつてこの地にライオンがいた記録としての役割もしているのである。
問三　直後に、その原因が述べられている。
問四　二つ前の段落で「家を作ったり食事を作るときの燃料にして」いたことが、一つ前の段落で「刃物は石器や青銅器でしたが、ずっと切れ味がいい鉄を使うように」なったことが書かれている。生活のために切り倒していただけでなく、道具が変化したために木を切り倒す速度が増し、それによって金属の精錬や陶器・磁器を焼くことが可能になったのである。したがって、一つ前の段落に書かれている「鉄を使」った道具によって「次つぎに切り倒され」たことが書かれていればよい。
問五　18～20行目に「森の木をこうして切ってしまうと、降った分だけの雨がいきなり流れだすようになってしまうので、洪水がよく起きるようになります」とあり、21～22行目に「森がなくなると、地面の表面にある土が流れ去ってしまって、農業ができない土地になってしまいます」とあるので、この部分からあてはまる言葉を探す。
問六　――線⑤の前に「という」とあるので、ここより前の内容をまとめる。「皮肉なことが起きる」とは、物事が予想や期待に反した結果になることである。
問七　29～33行目に「黄砂」についての説明が書かれており、この部分から、イは正しいとわかる。アは本文で述べられていない内容。ウ「ライオンが生存できる森を再生することが、地球環境にとって最も重要な課題」とは、本文で述べられていない。エ「それ以後二度と農作物が育たなくなる」とまでは本文に書かれていない。オ『黄砂』はこれから徐々に減っていくことが予想されている」は、38～39行目「黄砂も、これまでよりも増えるのではないかと心配されています」と合わない。

・じぶんもまた生き物の一つでしかないということ
問三　ウ　　問四　う→い→あ　　問五　(1) 外部化　　(2) 残酷さを隠すため
問六　ウ

解説

問一　「奇妙なこと」とは、7行目「料理をしないひとが増えてきた」ことを指す。それを「奇妙」と感じる理由を、料理が人間にとってどんな意味をもつのかを含めて答える。
問二　調理の過程で人間が学んできたことは、7段落に書かれている。
問三　［　　］の直前の「その点」の「その」は前の二文の、じぶんの身体でさえじぶんでコントロールできず、自己治療、相互治療の能力はほぼなくなったという内容を指している。「じぶんの身体」をコントロールできないということを「身体はもはやじぶんのものではない」と言っている。
問四　まず、6段落の第一文とうの文にある「思い知らされる」という言葉に着目すると、「誕生や病や死」と「排泄」で思い知らされることが並べられていると考えられる。次に、いの文にある、「外部化していった」ものである「そういう出来事、そういいとなみ」とは、「誕生、病、死、排泄」を指すことから、うのあとにいが続くことがわかる。そして、最後にあの文をもってくると、最後まで外部化しなかったものが「調理だった」となり、次の7段落にも自然につながる。
問五　(1)　ここでの「見えない」とは、調理を家の外に出すことでその過程が見えないということ。5段落で、病人の世話が病院へ、出産や死が家庭の外へ去ったことを、「外部化」と表現している。調理の場合も家庭の外へ去ったのであるから、「外部化」である。
(2)　8段落の「肉や魚を切り身にし、透明ラップをかけて売ったりして」や「新生児も遺体もきれいにされ、衣にくるまれて」に着目すると、9段落の初めの「覆い」は、「外部化」と同じ内容を表していることがとらえられる。筆者はこの文で「この覆いは残酷さを隠すためのものだろう」と理由を述べている。
問六　筆者はこの文章で「外部化」について説明し、それについての考えを述べている。その考えは、7段落の最後の文「このこと（＝外部化）がわたしたちの現実感覚にあたえる影響はけっして少なくない。」や、9段落の「いのちのやりとりという、もっと大事なものを隠してしまっている」という部分に示されている。この考えに合うのはウである。

P 28

〔画数・筆順・書写〕

1		2		3	
(1)	12	(1)	2	(1)	ウ
(2)	7	(2)	2	(2)	活
(3)	10	(3)	4	(3)	ア
(4)	7	(4)	3		
(5)	10	(5)	10		
(6)	9	(6)	2		
(7)	6	(7)	4		
(8)	9	(8)	7		
(9)	16	(9)	5		
(10)	1	(10)	2		
(11)	2	(11)	2		
(12)	3	(12)	3		
(13)	4	(13)	4		
(14)	3	(14)	3		

3

解説

(1)　「神」のへんは「ネ（しめすへん）」で、行書では「礻」のように書くので、ウが正解。アは「私」で「のぎへん」、イは「特」で「うしへん」、エは「植」で「きへん」。
(2)　「礻」は「氵（さんずい）」の行書での書き方である。
(3)　アの「ネ」は「艹（くさかんむり）」の行書の書き方で、「一十ネ」の順に書くので、楷書の書き順「一十艹」と違っている。